

春里地区懇談会での主な意見と回答

日 時 平成28年7月2日(土)午後5時～6時

場 所 東建塩河カントリー倶楽部

出席者 37人

【意見】現在坂戸に開発中の商業店舗に関して、県道から北側の可児川に通じる、開発区域に接する道路が拡幅される予定です。これは、可児川河川堤防の利用を可能にして、道路幅の狭い今春橋南詰めなどへの車の誘導を認めるものと思われませんが、今春橋南詰めへの誘導は好ましくありません。また(株)中濃の東側道路を進入禁止として広瀬橋西詰めの交差点を改良し、信号機を設置して車を通行させるよう検討していただきたい。

慢性化している坂戸地区全体の交通対策として、従来要望してきた坂戸から徳野南に通じる橋の建設を検討していただきたい。

【回答】当該店舗の出店に当たっては、事業者が地元住民に対する事業計画の説明会を開催し、地域の皆様のご理解のもと事業を進めているところです。また、当該事業は都市計画法の開発許可を必要とするもので、法基準に適合していることを確認し、開発許可をしました。

開発区域に接する道路については、法基準に従い拡幅するもので、ご指摘の道路へ誘導するものではありません。なお、今春橋から可児川河川北側の市道7003号線を拡幅整備することで事業者と協議中であり、少しでも県道の渋滞緩和につながればと考えています。

次に広瀬橋西詰めの交差点改良については、当該店舗の利用客は県道から直接出入りすることを想定しており、可児川堤防道路へ誘導することは考えておらず、交差点改良の計画もありません。交差点改良などについては市域全体の道路網の中で検討する必要があるため、今後の状況を見ながら検討します。

坂戸から徳野南へ通じる橋の建設については、膨大な事業費が必要となることが予想されるため橋の建設は困難であり、現在計画はありません。

【意見】緊急時・災害時における防災無線の役割は大きいと思います。各自治会には集会所近くに無線の子局があり個別に放送することができますが、自治会内に一斉に伝えることができません。災害発生時や水防・防災訓練時、自治

会行事の連絡など、各自治会内の情報伝達に防災無線を使用できるよう改善してください。

【回答】防災行政無線は災害時などに市からの緊急情報を周知するためのネットワークとして設置しており、子局での放送はあくまでも地域行事など平時のお知らせ用として利用いただいている状況です。

現在、防災行政無線の子局は市内に188基ありますが、このうち春里地区内の子局は23基です。子局のうち連絡所や小中学校などには簡易な地区遠隔装置を設置していますが、それ以外の子局では単体での放送しかできず、他の子局へも拡大して放送するにはシステム変更も伴うなど一定の経費が必要となります。

また、災害時などに市の緊急放送と自治会からのお知らせが放送された場合、指揮系統が分かれることで、避難行動など住民の混乱を招く恐れもあるなど課題もあります。運用面で問題がないかどうかなどもよく検討した上で、改善の可否を判断したいと思います。

【質問】デマンドバス（電話で予約バス）のコースや時間については、住民ニーズの変化に合わせて定期的な見直しが必要だと思いましたが、現状ではどれくらいの頻度で見直しを行っていますか。

【回答】アンケート調査や様々なご意見などを基に、随時見直しを行っています。ただ、様々なニーズがある中で、どのように見直せばよいかを決めることが大変難しくなっています。自治会などで意見をまとめていただければ、市としても検討がしやすくなり、内容によってはスムーズに対応できるのではないかと思います。

【意見】地域の公園について、高齢化などに伴い階段があるところのバリアフリー化が必要ではないでしょうか。

【回答】公園ごとに地形や対応方法が異なりますので、具体的に地域要望を出していただいた上で検討したいと思います。

【意見】避難行動要支援者名簿について、名簿情報の開示を希望しない人や非

自治会員も含まれており、実際の災害時に混乱するおそれがあるため、何らかの検討をしていただきたい。

【回答】名簿は法律に基づいて作成しており、本人の同意なく情報を開示することはできませんが、災害時に備えて出来る限り開示に協力していただけるよう、今後も説明を尽くしたいと思います。また、各地域でも災害時に活用しやすい名簿となるよう独自に情報を加えるなど工夫していただければありがたいと思います。

【質問】可児駅前拠点施設について、その機能などを教えてください。

【回答】最大の機能は、子育てに関わる専門職が集まることで、様々な相談などに適切に対応できるノウハウを蓄積し、それを情報提供するなどして市内の幼稚園・保育園や学校などを支援することです。また、子育てに関する手続きの窓口を集約するとともに、利用者ごとに担当職員を固定化することで、利用者との信頼関係を築き、相談しやすい環境をつくりたいと考えています。さらに健康づくりの機能を持たせたり、駅前という立地を生かして若い人にも利用してもらうことで、世代間交流や賑わいづくりにもつながることを期待しています。